



ふじあざみ



さった峠より望む富士

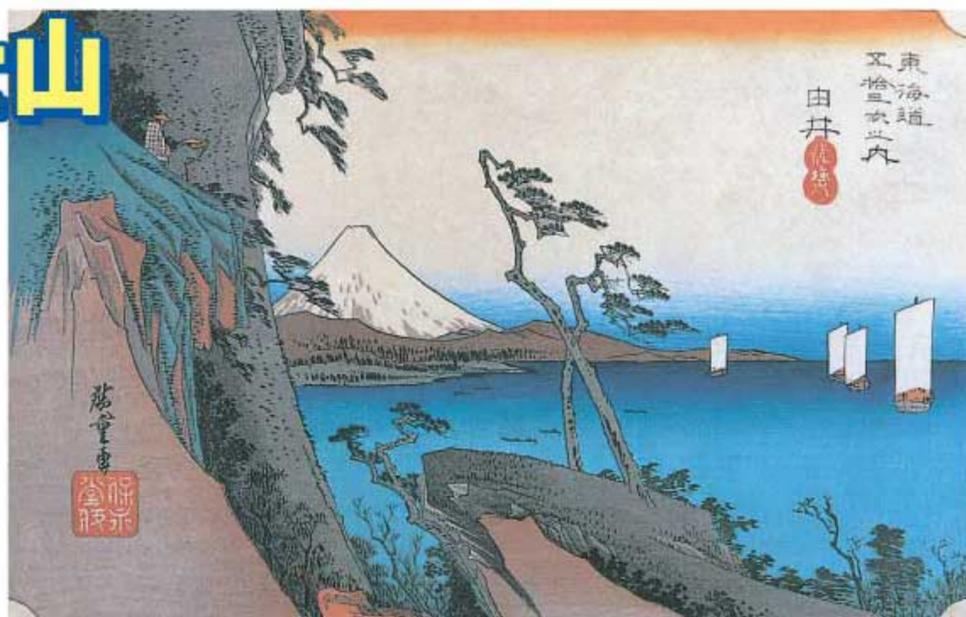
東海道五十三次と富士山

■東海道一の絶景地

歌川広重は天保3年(1832)秋に、幕府の行列に加わって上洛(京都まで往復の旅)しました。この旅により天保4年(1833)『東海道五十三次絵』が生まれました。その中でも、静岡県庵原郡由比町のさった峠からのながめは、東海道一の絶景地といわれ、右の絵の「由比宿」が描かれています。眼下は海、そのまま駿河湾に転がり込むような急な峠は、かつて箱根峠と並んで東海道屈指の難所でした。目の前には紺碧の駿河湾が広がり、雪を頂いた富士が美しくそびえ立っています。上の現在の写真と見比べていただければ、構図がぴたりと

重なります。左上の崖にいる旅人が、こわごわ目の前の風景を見ており、右端には白い帆を張った船が浮かんでいる構図は絶妙のバランスで描かれています。視線の方向から考えると、この図は京に向かう広重が、余りにも絶景であるため、江戸方面に振り返って描いたものと考えられます。

現在、この難所は日本の大動脈(東名高速道路・国道1号・JR東海道線・情報通



資料提供:東海道広重美術館

信網等)が集中する重要な地区となっていますが、豪雨や東海地震等により大規模な地すべりが発生する恐れがあるとして、富士砂防事務所では平成16年度より直轄地すべり対策事業調査に着手しています。

富士山と東海道五十三次 富士山の基礎知識

天保三年幕府八朔御馬献上行列に加わり、宿場町の風景を描いた歌川広重の『東海道五十三次』。全55枚中に7枚の富士山が描かれています。今回はこの七宿場の今昔について調べてみましょう。

七宿場の今昔

■遠景の白富士。川崎宿

広重が『東海道五十三次』で最初に富士山を描いたのは「川崎宿」です。度重なる多摩川の大洪水のため橋は架けられず渡し舟にたよっていました。この渡し賃と川崎大社(平間寺)への参拝客が多く訪れるということで宿場は繁栄しました。さて、ここで描かれている遠景の白い富士山、現在この場所ではビルなどにより見る事ができません。



■今やマリンスポーツのメッカ平塚宿

平塚宿は、宿泊よりも休憩に利用されることの多い小さな宿場でしたが、近くでは鎌倉幕府がひらかれた場所でもあり、多くの人々が訪れました。広重は平塚から大磯へ向かう途中で高麗山とその下を流れる花水川を描いたと考えられます。この絵では田を縫って東海道が延びているので、東海道をあぜ道に見立てたといわれています。

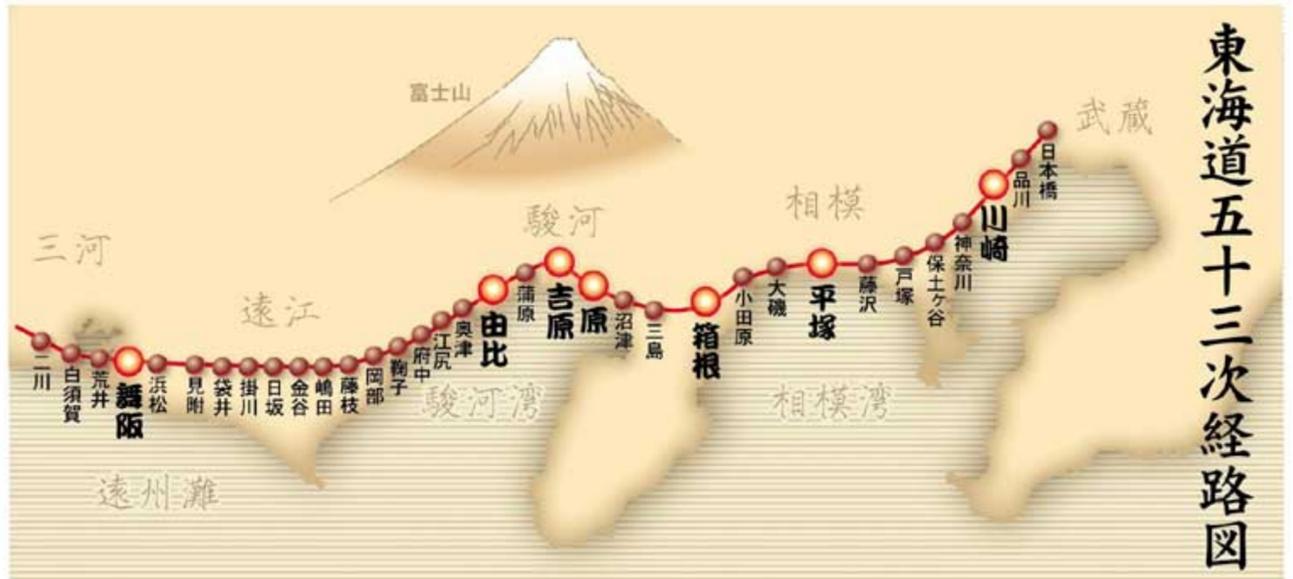
■謎の岩山？箱根宿。

箱根宿は1618年箱根山を越える目的でつくられました。箱根峠の前後四里を「箱根八里」と呼び大井川とともに東海道一の難所でした。急な坂が続き多量の雨が降ると泥水などで歩行が困難でしたが広重が箱根を描いた頃には排水路を設け石畳に整備されており現在でもハイキングコースとして親しまれています。さて、広重はけわしい岩山を天にとどかんとばかりに描いていますが周辺には似たような山がないため、広重は「天下の険」を表すためのイメージとして描いたのではないかとされています。



■富士山の眺めNo.1 原宿。

原宿は旅籠が25軒と小さな宿場でしたが、当時、浮島原と呼ばれた沼地が富士山のふも



東海道五十三次経路図

とで広がっていたため、富士山を大きく見ることが出来ました。広重もその富士の大きさを粋からはみ出すことで表現したのでしょう。現在でこそ東海道新幹線や国道一号などが横切るものの昔ながらの景色を残しています。



■左富士、吉原宿

『東海道五十三次』では2枚だけ左手に富士が描かれたものがあります。基本的に京都への進行方向で描かれていますが、由比での富士は江戸の方角を向いて描いているため実際には吉原だけが左手に富士を眺める場所になるでしょう。吉原宿はもともと海岸沿いでしたが、江戸時代初期の度重なる洪水で宿場が流され北へ北へと宿場が移り海岸沿いを旅してきた東海道ですがここではじめて北へ迂回するかたちになり、富士が左手に見える構図になります。

明治になり宿場制度が廃止になり田畑を持たない人たちがはじめた手漉き和紙づくりが機械による洋紙製造になり現在の製紙工場が建ち並び「紙のまち」として発展することとなりました。

明治になり宿場制度が廃止になり田畑を持たない人たちがはじめた手漉き和紙づくりが機械による洋紙製造になり現在の製紙工場が建ち並び「紙のまち」として発展することとなりました。

■東海道一の絶景！由比宿

海産物が豊富なこの土地は古くから海女などがにぎわい製塩などが行われてい



た漁村でした。広重が描いた「さった峠」は東の箱根峠、西の鈴鹿峠とともに東海道の三大難所とよばれています。現在でも江戸時代の風景とほぼ同じ風景で眺められるのは、東海道五十三次の中で「さった峠」だけです。桜エビで有名な由比ですが当時は食べる習慣がなかったようです。現在、由比宿の本陣跡に建物を復元した由比本陣公園の中には歌川広重の作品をメインに展示した「東海道広重美術館」があります。

■謎の風景、舞阪宿

『東海道五十三次』にはもう一枚富士山が描かれた作品があります。浜名湖に面した舞阪がそれです。舞阪では絵に見られる海上の山や富士山はないため、おそらく広重が洋画家、司馬江漢の描いた龍山寺近くの風景を参考に描いたとされています。江漢が描いた作品には富士山は描かれていないため、富士山は広重独自のアレンジだといわれています。

その他『東海道五十三次』には数多くの謎があります。温暖で雪の少ない「蒲原」でのドカ雪、「掛川」では正月のイメージがあるたこ揚げと田植えと一緒に描かれ、富士山7枚中6枚に宝永山が描かれていない等、数多くの謎があり、歌川広重が実際に東海道を旅したのかも謎とされています。それに関する書籍も多く出版されています。

参考文献
東海道五十三次を行く
<http://bruce.milkcafe.com/kaidou/index.shtml>
写真提供：東海道広重美術館

富士山に暮らす

富士宮市白糸地区では、17年程前から富士山の湧水を利用した水かけ菜の栽培を行っています。水かけ菜は稲の裏作として水稲収穫後の水田に「高うね」を作り、10月上旬に種をまき、うね間に富士山の湧水を流して育てます。

富士山の湧水が育む水かけ菜

■湧水と白糸地区の気候が育む水かけ菜
「水かけ菜を食べないと春がやってこない」と地元で言われる水かけ菜。今年も立春に合わせて摘み取りが始まりました。湧水豊富な富士宮でも、水かけ菜は白糸地区でしか栽培できません。白糸地区は海拔500～600メートル付近に位置していて、11月～2月の厳冬期には夜間気温が氷点下5度くらいになります。普通の作物はこの寒さでは生育が難しいのですが、水かけ菜は富士山の湧水(水温11～13度)を圃場に流して栽培するため、その保温効果で栽培することが出来ます。水をかけて育てるから「水かけ菜」と呼ばれ、本来はアブラナ科に属する植物です。湧水の恩恵を受けて育てられる水かけ菜ですが、湧水さえあれば育てられるかというところという訳にも行きません。水かけ菜の柔

らかい食感、富士宮地方の言葉で言う「みるい」食感は、白糸地区の気候によるところが大きいのです。例えば海拔が500～600メートルより高くなると、何日も寒冷的な日が続く、湧水の保温効果もそれほど望めず、栽培に適しません。また雪の多く降る地域も管理が大変になります。一方海拔が低く、暖かい地域では、水かけ菜が育ちすぎてしまい、アクが強く筋張って固くなり、野菜としての商品価値が下がります。雪も少なく、ほどよい寒さの白糸地区の気候が水かけ菜を「みるい」野菜に仕上げているのです。

■「水かけ菜」特に女性にお勧めです
水かけ菜は冬場の栽培のため、害虫が発生せず無農薬栽培ですので安心して食べることができます。また、水かけ菜の栄養成分を見ても、水かけ菜には、カル



富士山を背に実る水かけ菜

シウム・ビタミンCがほうれん草の倍の量を含みます。鉄分も多く貧血予防に効果があり、食物繊維も豊富で便秘解消を助けます。また、最近「葉酸」と呼ばれる栄養成分が注目されています。「葉酸」はビタミンBの一種で造血作用に関与しています。この葉酸を妊娠のごく初期に取れば非常に良いという研究成果が出ています。この注目すべき栄養成分「葉酸」でも水かけ菜は野菜の中でもトップクラスの含有量を含みます。まさに水かけ菜は女性に優しい野菜です。

資料・写真提供: JA富士宮『広報紙ふれあい』

富士山に寄せる想い

台風を監視し続けた気象観測施設を移設

「富士山レーダードーム館」

日本の最高峰、富士山頂で台風監視の砦として35年間気象観測に活躍した富士山レーダードームが、山梨県富士吉田市「道の駅・富士吉田」横に移設され、新たに体験学習施設「富士山レーダードーム館」として、4月24日(土)に開館しました。そして今回はそこで働く職員の皆さんにお話を伺いました。

■オープニングイベント

4月24日のオープンには、約2000人の方が来館され、午後2時から開館を記念して、当時建設にかかわっていた方々や富士山測候所に勤務されていた方々による「富士山レーダードームを語る会」



が開催され、当時の苦労話が交わされました。また、当時気象庁の職員として施設設置にたずさわった作家の故新田次郎氏のご長男も出席され、「父が在職中に精根かたむけてやってきたものなので、こう

した形で保存されて、父もよろこんでいると思う」と話されました。

■館内はこんなところ

3階建てのドーム館内からは、晴れていれば富士山を眺めることができ、いつまでもレーダードームを見守っているようです。1階では富士山レーダードーム建設の計画から完成にいたるまでの道のりを、資料や写真、また150インチ大型スクリーンで紹介しており、これを見れば当時の建設の苦労がよく分かります。また、レーダー設置にたずさわった作家の故新田次郎氏の直筆原稿や文学作品、遺品のピッケルやカメラなどを展示しているコーナーがあり、文学作品は自由に手にとって読むこともできます。2階に行くと、ビデオやパネル、山頂の測候所を1/50倍で再現したジオラマ(模型)で富士山測候所の仕事や山頂での暮らし、自然環境を紹介しています。山頂にあった本物の観測機



器に触れたり、「寒さ体験コーナー」では、5月の山頂の平均気温であるマイナス5度、風速13メートルを体感できます。また、「気象観測クイズステーション」で正解数に応じて「富士山レーダードーム館気象観測員認定証」がもらえ、子供たちにも好評です。3階に登ると実際に移設したレーダードームの内部を見上げることができます。直径9メートルのドーム内に、直径5メートルのレーダーが設置されていて、実際に1周30秒で回転するレーダーは迫力満点です。

■多くの人たちに伝えたい

職員の皆さんに抱負を語っていただきました。「富士山レーダーが富士山と関わりが深いまち『富士吉田市』に移設、復元できたことを本当にうれしく思っています。この富士山レーダードーム館を通して、より多くの人たちに富士山レーダーの偉業、そしてその意義を伝えることができたらと職員一同心より願っています。」



職員の方々

入館料/大人600円、小中高生400円
開館時間/午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
定休日/火曜日、及び祝日の翌日(火曜日の場合はその翌日)
問合せ/富士山レーダードーム館 TEL0555(20)0223

お知らせ

日本の大動脈(東名高速道路・国道1号・JR東海道線・情報通信網等)が集中している静岡県庵原郡由比町において、東海地震の想定震度が公表され、また、大規模な地すべり地形が確認されたことなどから、富士砂防事務所では、当該地区の地すべりの実態等を把握するため、直轄地すべり対策事業調査に着手しました。

由比地区地すべり対策事業調査に着手



砂防工事現場での体験学習

3月2日(火)、富士宮市立白糸小学校の6年生20人が同市上井出にある富士山大沢川扇状地内の砂防工事現場を見学し、砂防施設の役割や工事の必要性を学びました。また、専門の機器を使って測量も体験し、樹林帯では野鳥のための巣箱を取り付けました。



富士山総合学習及び現地見学会結果報告

実施日	参加者	参加人数	見学及び学習内容
2月14日(土)	富士山エコレンジャー研修会	70名	概要説明、講演会
2月25日(水)	一宮建設事務所	20名	大沢川扇状地見学
3月1日(月)	ドイツ国営テレビ	5名	大沢川扇状地現地取材
3月10日(水)	自衛隊富士教導団	25名	概要説明、大沢川扇状地見学
3月25日(木)	富士吉田市役所	60名	概要説明、講演会
4月1日(木)	ベンチャースカウト学生	2名	概要説明
4月19日(月)	JICA研修(イラン国)	5名	概要説明、大沢川扇状地等見学



平成16年度富士砂防事務所広報行事予定

開催日	内容	開催場所	対象者	募集予定
6月20日	砂防フェスティバルしずおか	静岡県青葉シンボルロード	一般	-
6月中旬	フーチャン公園の記念植栽	潤井川沿いフーチャン公園	幼稚園児	-
6月中旬	富士川楽座パネル展	東名高速道路 富士川楽座 4F富士山ビューギャラリー	一般	-
8月上旬	夏休み、大沢扇状地自然観察会	大沢扇状地 徒歩延長約5km (標高700~900m)	小中学生及び一般 45名	7月上旬
10月上旬	富士山、大沢崩れと御中道見学会	御庭駐車場~大沢崩れ 往復約8km徒歩 (標高2200~2300m)	一般90名 (2回に分けて実施します)	9月上旬

「フジヤマビューギャラリー」が道の駅「富士川楽座」に開設

4月2日(金)、富士山をテーマにした「フジヤマビューギャラリー」が道の駅「富士川楽座」4F展望スペースに開設されました。富士山について学ぶコーナーには、噴火した場合に火口ができる可能性のある範囲や溶岩流や火砕流が流れる想定地域を示す地図を設置し、ビデオ解説もあります。富士山の模型は10m間隔の等高線で製作された精密なもので、周辺の市町村の様子が一目で分かります。



山宮さくら公園の完成記念植樹

富士宮市山宮、西之沢橋上流部の砂防工事に伴う広場の整備工事が完成し、3月11日(木)、富士宮市立山宮小学校の全校児童163人が記念植樹をしました。同広場は児童たちが「山宮さくら公園」と命名しました。公園は山宮小学校区通学路の道路沿いで、全校児童163人中約80人が公園の横を通って通学することから、子供たちの遊び場や総合学習の場として役立つことになるでしょう。



第5回 中部の未来創造大賞 「地域づくりの」活動募集

「中部の未来創造大賞」は、住民、企業、学校、行政等が取り組んでいる地域づくり活動を募り、表彰することによって、これからの新しい中部の「地域づくり」に役立てて行くものです。

■お問い合わせ: 中部の未来創造大賞推進協議会事務局
中部地方整備局技術管理課 TEL052-953-8131
(社)中部建設協会企画部 TEL052-962-2227
<http://www.cbr.mlit.go.jp/mirai/>

■応募: 応募用紙に必要事項を記入の上、下記提出先まで送付してください。

■締切: 平成16年6月30日

■提出先: (社)中部建設協会企画部宛

〒460-8575 名古屋市中区丸の内三丁目5番10号

お詫びと訂正

前号のふじあざみ47号におきまして、誤りがありました。1ページ「黒富士(山梨県甲府市)」の写真が間違っで記載されており、読者の皆様にご迷惑をおかけいたしました。ここにお詫びし、訂正します。



●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験された方の情報提供をお願いいたします。

〈連絡先〉

富士砂防事務所

担当/総務課長・釜崎、または調査課長・伊藤まで

TEL.0544-27-5387

〈お問合せ先〉

■国土交通省富士砂防事務所
〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

■富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1
TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。

今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合も考えられます。